

〈 資料 2 〉

「就学指導等に関する実情調査」

1 アンケート調査について

インクルーシブ教育の理念を踏まえ、全ての子どもが共に学び共に育つことを基本的な考えとする「地域に根ざした教育」を推進することが求められています。しかし、特別支援学校に在籍する児童・生徒の割合は、平成20年度を境に、奈良県は全国平均を上回っており、年々増加する傾向にあります。保護者が特別支援学校を選択するのはなぜなのか、その理由を探るために、調査をしました。

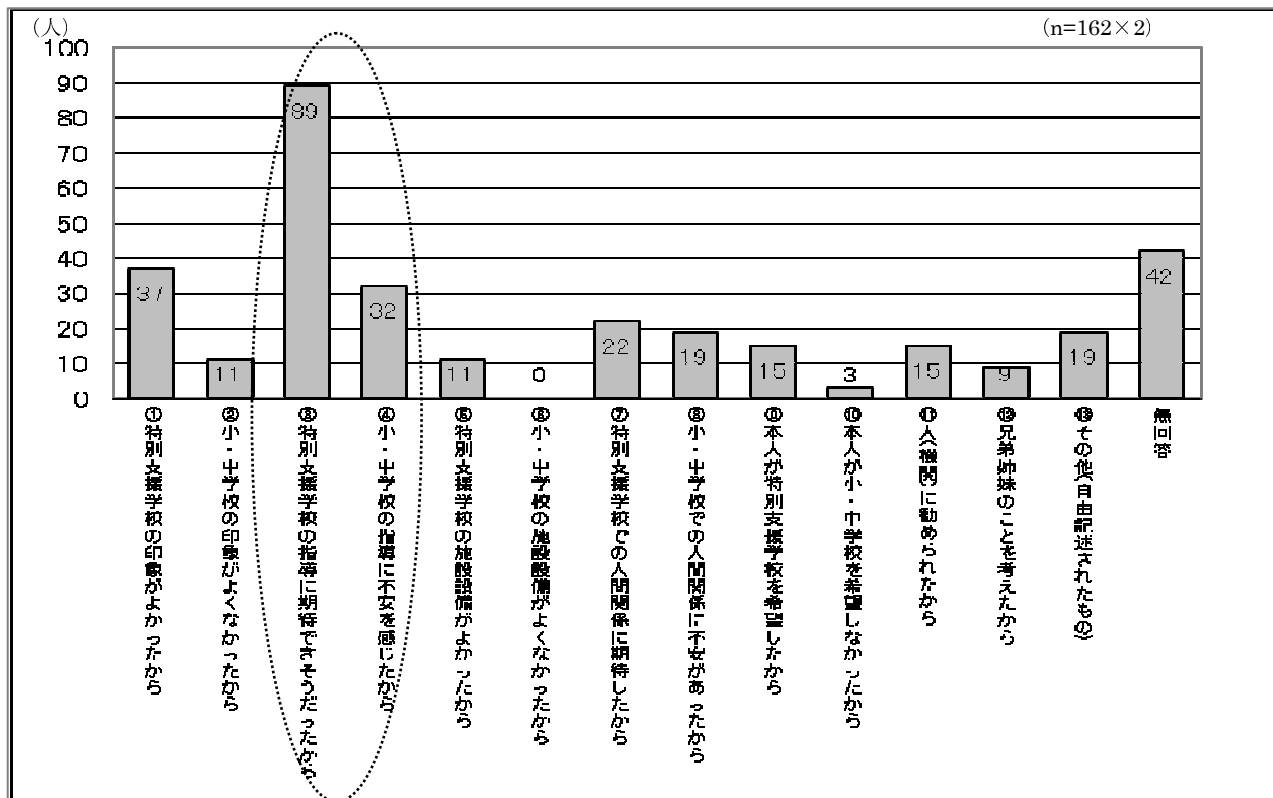
実施日	平成23年9月上旬		
対象者	特別支援学校に在籍する小学部1年生及び中学部1年生の保護者		
在籍者数	185名	回収数	162部 回収率 87.6%

2 調査結果について

(1) 就学先を特別支援学校に決めた理由

就学先を決定する際に「指導」を1番重視している。

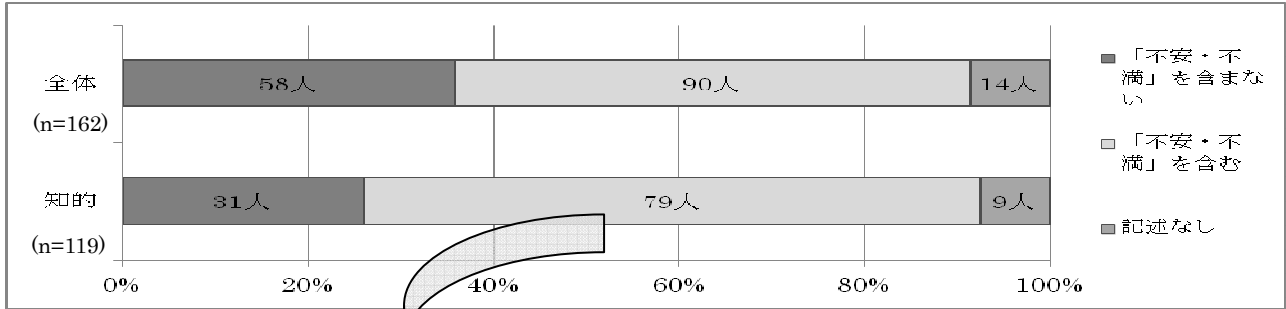
Q 就学先を決めた理由はどれですか？ (①～⑬の中から2つ選択)



(2) 調査用紙中の自由記述欄から分かったこと

多くの保護者が、地域の学校や就学指導への不安・不満をいただいている。

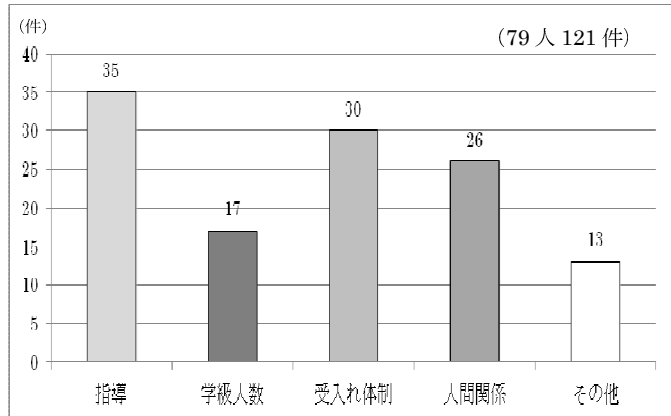
Q 就学指導（相談）や地域の特別支援教育の実情等について、感想やご意見を自由にお書きください。



「不安・不満」の内容を分けてみると…

「指導」に関するものが最も多い。

- 指導…特別支援学級担任の専門性や指導に関するもの
- 学級人数…特別支援学級の教員数や特別支援学級在籍者数に関するもの
- 受け入れ体制…地域の学校の受け入れ体制に関する校長や教員の発言や態度に関するもの
- 人間関係…いじめ等への不安に関するもの
- その他…就学指導に関するものなど



～地域で子どもたちを支えるために～



障害者基本法 (H23.8 改正)より

国及び地方公共団体は、可能な限り(障害のあるなしにかかわらず)共に教育を受けられるよう配慮しつつ、教育の内容及び方法の改善及び充実を図る等必要な施策を講じなければならない。